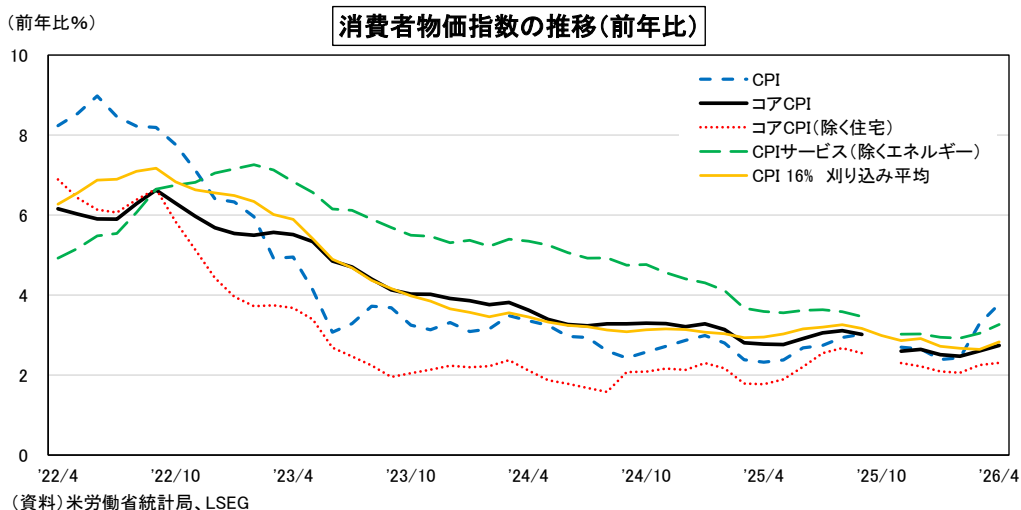
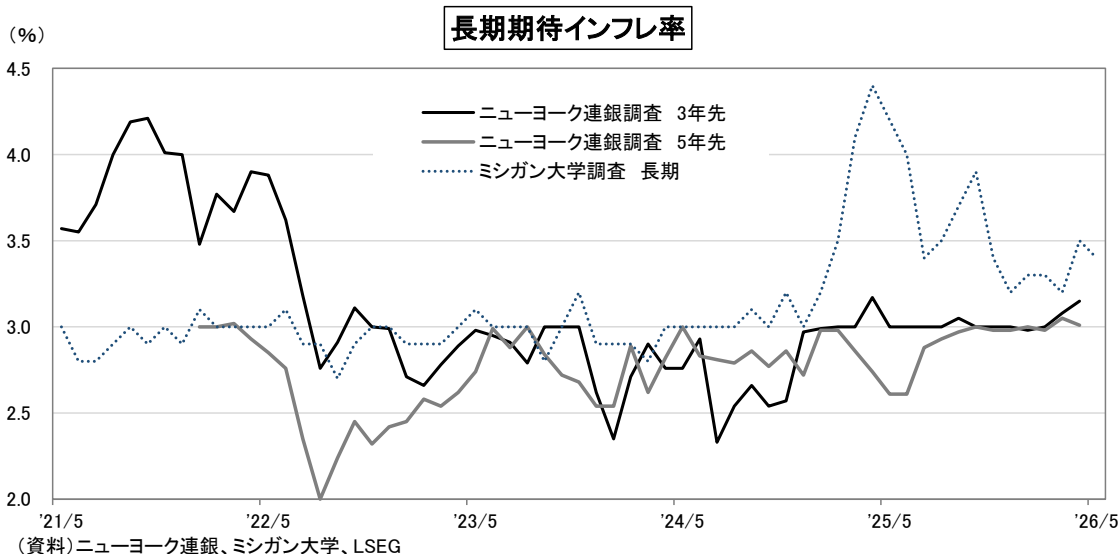


## (米国)4月も物価上昇が続く

12日に公表された4月の消費者物価指数(CPI)は、エネルギーが前月比3.8%と引き続き速いペースで上昇していることから、総合は同0.6%(前年比3.8%)、エネルギーと食料を除くコアは同0.4%(同2.8%)となった。消費者物価指数の加速が続いている。

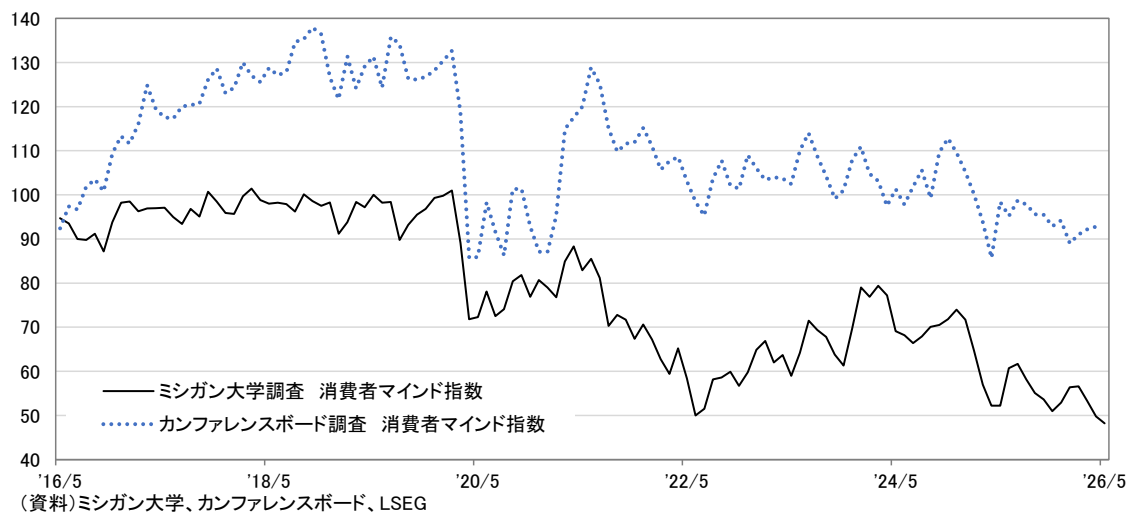


5月のミシガン大学消費者マインド調査(速報)での期待インフレ率をみると、1年先は同0.2ポイント低下の4.5%、長期は同0.1ポイント低下の3.4%となった。また、4月のニューヨーク連銀調査では、1年先期待インフレ率が前月比0.2ポイント上昇の3.6%、3年先と5年先はそれぞれ3.1%、3.0%と先月と同じであった。最近の原油高が長期期待インフレ率を押し上げている、とまでは言い切れない。



なお、5月のミシガン大学調査の消費者マインドは小幅に低下し、ガソリン価格や物価高、関税への言及が確認された。

### 消費者マインドの推移



金融政策への影響を考えると、4月は雇用統計が堅調であったことや、消費者物価指数が加速していることから、当面利下げは見送られることとなるだろう。4月FOMCの時点では、現在の政策金利水準(3.5~3.75%)は適切との見方が大半であったものの、緩和バイアスを声明文に記載することに3人のFOMC参加者が反対した。

FOMCによる金融政策の判断は中東情勢の影響を強く受けるため、状況は流動的だと思われるものの、筆者としては現在のところ、次の利下げまではしばらく時間がかかるとの想定が妥当であり、次の動きが利上げとなる可能性は低いと考えている。